

IUFRO-J NEWS

No. 122 (2018.1) —

IUFRO 第 125 周年記念大会特集号

IUFRO 第 125 周年記念大会，IUFRO 誕生とその使命

IUFRO 常任理事 Alexander Buck

—科学におけるハイレベルなアイデアのやり取り，領域を超えた対話，独自のネットワーク，素晴らしい祝典，そして，世界の森林研究におけるこれからの課題にインスピレーションを与えるスピーチ等の刺激的な日々を振り返って—

2017 年 9 月 18 日～22 日，南極大陸を除く全ての大陸にわたる 89 カ国から，2000 人以上の参加者（40% 以上が女性）がドイツ連邦共和国のフライブルク・イム・ブライスガウ市に集まり，IUFRO 創立第 125 周年の祝典を執り行いました。

参加者には，サマースクールやトレーニングコース（写真-1）など，事前に集まる機会が企画されていました。トレーニングコースは，特に，経済的に恵まれていない国でキャリアの早い段階にいる科学者を対象としたものでした。多くの参加者がサマースクールに参加して Great Freiburg（大フライブルク）地域の森林などの名所への見学ツアーに参加し，有名なシュワルツワルト（Black Forest）や，その周辺のスイスやフランスなどを見学しました。

Thünen 研究所の Andreas Bolte 博士が率いるチームの素晴らしい企画・運営によって，IUFRO 運営委員会がベルリン近郊の IUFRO 誕生の地，Eberswalde で開催され，第 125 周年記念大会に先立つ祝賀イベントを行いました。この祝賀イベントでは，現 IUFRO 会長の Mike Wingfield 博士に IUFRO の最も重要な祝典は Eberswalde

で開催されるべきであると引き継いだ前会長 Walter Liese 博士（1977-1981）にご臨席いただきました。さらに，IUFRO 理事会は，記念大会の前日にフライブルクに集まり，現在及び未来の戦略的課題を話し合いました。

第 125 周年記念大会は，数多くのレセプションや祝賀会の後，9 月 19

日に初日を迎えました。参加者はあたたかい雰囲気の中，日曜日の歓迎レセプションで迎えられました。また，Informal Stakeholder Consultation が，月曜日の夜に招待者のみ（IUFRO-J 議長と幹事を含む）にて開催されました。また，月曜日には，楽しい祝典の半ば，フライブルグ市長，IUFRO 会長（写真-2），及び Baden Württemberg Forest and Research Centre (FVA) 副所長により，University's Herderbau の敷地内でボダイジュ（セイヨウシナノキ）



Alexander BUCK



写真-1 IUFRO-SPDC (能力開発のための IUFRO 特別プログラム) トレーニングコース, フライブルグ大学にて (写真提供 : IUFRO)
Photo-1 IUFRO-SPDC Pre-Congress Training Course at Freiburg University (Photo: IUFRO)



写真-2 IUFRO 会長, 記念植樹式典にて (写真提供 : FVA/K Polkowski)
Photo-2 IUFRO President, Professor Mike Wingfield at the tree planting ceremony (Photo: FVA/K Polkowski)

の記念植樹式典が催されました。ヨーロッパでは、ハート型の葉を持つボダイジュは深い意味を持ち、愛、若さ、そして未来を象徴します。

記念植樹式典に続き、Herderbau の中庭にて“森林、科学、人々をつなぐ— IUFRO の 125 年の歴史を振り返って— (Interconnecting Forests, Science and People - IUFRO's activities of the past 125 years)”展が始まりました。フライブルグ大学の森林科学者とフライブルグの芸術大学 (University for Art, Design and Popular Music) 学生とのユニークな共同作業による展示会は創造性に富んでおり、われわれにインスピレーションを与えました (写真-3)。素晴らしい会を企画・運営してくださった方々、そして学生の皆様に、この場を借りて再度、多大なる感謝を申し



写真-3 展示を見つめる IUFRO-J 議長 (写真提供 : FVA/K Polkowski)
Photo-3 Dr. Haruo Sawada (IUFRO-J President and FFPRI Director General) at the History Exhibition (Photo: FVA/K Polkowski)

上げたく思います。

さて、2017 年は IUFRO の第 125 周年であり、IUFRO の歴史の概要を示す良い機会ですので、以下に IUFRO の誕生について記述します。

IUFRO は、ドイツの Eberswalde にて 1892 年 8 月 17 日に Association of German Forest Experiment Stations (ドイツの森林研究機関の連合)、オーストリア及びスイスの試験場を最初の加盟機関として設立されました。それ以来、IUFRO は世界規模の組織へと成長し、今では 126 カ国、600 を超える組織に所属する 1 万 5000 人の科学者を代表する組織となりました。幅広い科学分野及び学問領域を代表する 700 人以上の科学者が、IUFRO 科学部会のコーディネーター、研究グループの一員、また、

その他の IUFRO Officeholder の一員として従事しています。

IUFRO は、共同研究が森林及び人々の未来に必要なことであるという認識から発生しました。IUFRO の設立以来、森林のエコシステム及び持続的管理、森林がもたらす多数の恩恵、及び森林が直面している数多くの脅威などの理解において著しい進歩を遂げてきました。人口増加、経済のグローバル化、気候変動など、現在、そして未来におけるグローバルトレンドは、森林、そして森林に頼る人々にとって今までにない課題であります。これらの課題を指摘することは異なる科学分野及び領域間での効果的で効率的な協力が求められます。このように、IUFRO が創立された理由は 125 年前から変わらず、今でも意義があるものなのです。

IUFRO は、IUFRO の歴史を未来のために記録し保存することを目的とし、1992 年度の 100 周年からの IUFRO の重要な歴史的発展を記した IUFRO 125 年史 “125 Years of IUFRO” を発行しました。IUFRO のオフィシャルページよりご覧ください。

<https://www.iufro.org/publications/general-publications/article/2017/09/20/125-years-of-iufro-published-on-the-occasion-of-iufros-125th-anniversary/>

IUFRO 125 年史は、IUFRO アーカイブ、IUFRO 代表とのインタビュー、IUFRO Officeholder からの情報、さ

らに前事務総長 Heinrich Schmutzenhofer 博士に御協力をいただきました。この執筆のために集まった多くの著者による功績がこの刊行物です。彼らの貢献に深く感謝を申し上げます。

IUFRO の完全な歴史もしくは細部にわたる正確な記録を残すことは不可能です。しかしながら、この刊行が世界中の森林科学者にとって有益な資料となり、また、インスピレーションとなることが私の願いです。

今回刊行された IUFRO 125 年史 “125 Years of IUFRO” は IUFRO の歴史に関する最初の記録書ではありません。1992 年度に IUFRO の 100 周年を記録する目的で「1892 ~ 1992 年、IUFRO 100 年史」「100 years of IUFRO」というタイトルで、今回のものより短い、少し異なった形式の記録が出版されています。IUFRO のオフィシャルページからご覧ください。

<https://www.iufro.org/publications/general-publications/article/2017/08/29/100-years-of-iufro/>

IUFRO の歴史を詳しく知りたい場合は、この重要な、最も興味深い 100 年史を今回の刊行物と併せて参照していただくことをお勧めします。

この “125 Years of IUFRO” が皆様にとって興味深く有益であること、“Interconnect Forests, Science and People” という IUFRO のモットーに基づき、森林と科学、そして人々をこれからもつなげていくことを願います。

補足：IUFRO-J と第 17 回 IUFRO 世界大会京都

1981 年に京都で第 17 回 IUFRO 世界大会（以下、「京都大会」という）が開催されました。林業試験場（現在；森林総合研究所）に事務局を持つ IUFRO-J は、我が国で森林関係の世界大会を開催するために発足し、何年もの準備期間を経て、林業試験場、山林局（現在；林野庁）（1903 年に山林局として IUFRO に加盟）、大学、企業等が一団となって京都大会を成功に導きました。その後 36 年を経過した現在も、京都大会は IUFRO 本部とその関係者の心に浸透しています。筆者が 2017 年北京で初めて IUFRO 本部のメンバー達とお会いした時の第一声は、「京都大会は、どの開催国でもなし得ない『ハーモニー』の賜物」であったということです。敵対している国同士からの参加者が和やかに過ごしていた、あれほどきめ細かによく組織された（well-organized）大会はない、とのことでした。

巻頭の Alexander Buck 常任理事に紹介されている Walter Liese 前 IUFRO 会長（1977-1981）は、「IUFRO スローガン “Interconnecting Forest, Science and People” が持つ意味を一枚の写真で表現してください。」という質問に、IUFRO 世界大会京都をご選択いただいています。記念インタビュー応答（<http://iufro2017.com/testimonials/#liese>）をご参照ください。

なお、IUFRO 百年史は、IUFRO-J NEWS No. 40（坂口勝美：ユフロ創立からミュンヘン大会直前まで）、42（佐藤大七郎：ミュンヘン大会から京都大会決定まで）、44（松井光瑤：京都大会準備から事後処理まで）で連載紹介されています。合わせてご参照ください。

IUFRO-J 事務局 川元スミレ

IUFRO 第 125 周年記念大会事務局による Walter Liese 前 IUFRO 会長記念インタビュー

略歴

フライブルクおよびハン・ミュンデンにて森林植物学者としての教育を受けました。デュッセルドルフ、マンハイム、フライブルク、そして、ミュンヘンでの専門家としての仕事を経て、1963 年、ハンブルク大学の木材科学科の教授となりました。木材の木構造、劣化、保存、利用を中心に、さらにタケ及びラタンを専門としています。

IUFRO との関係は？

エーベルスワルデで生まれ、1892 年に創立された International Union of Forest Research Organizations (IUFRO) にて森林植物学者であった父の影響により、IUFRO の名は昔からよく知っていました。フライブルクおよびミュンヘンを拠点としていた IUFRO 会長の Julius Speer と知り合う機会があり、IUFRO との関係は、森林生物学者としてフライブルク (1953-1959) にいた

時代に、より親密なものとなりました。そして、1964 年～1973 年、著作目録および用語法に関する FAO (国連食糧農業機関)/IUFRO 共同委員会の一員となりました。1968 年には拡大委員会の一員でありました。後に執行委員会の一員となり、西ヨーロッパの地域代表、そして、国際関係にまつわる新しく創立された委員会の議長となりました。これらを経て 1976 年のオスロでの第 16 回世界大会の選挙にて 1977 年～1981 年の IUFRO 会長として選ばれました。

IUFRO はなぜ重要なのですか？

IUFRO を創立した原点のアイデアは、森林研究を統一させ、測定方法および測定結果を比較可能にし、発展させ改善させる必要から生まれました (J. Speer, 1972 年)。IUFRO は世界中の forester を一つの場所に集め、政治的境界線を越えて協力することを創立当初から可能にさせました。

今回の大会に期待することは？

現在および未来の展開を知り、友人および同僚と共に今回の功績を祝うためにも、特に昔の友人と再会できることを楽しみにしています。

あなたにとっての「Interconnecting Forests, Science and People」の意味を一枚の写真で表現してください

大会が森林、科学および人々を一つにします。この写真は 1981 年の京都での世界大会にて撮影されたものです。



Walter Liese 前 IUFRO 会長



IUFRO 世界大会京都

The IUFRO World Congress held in Kyoto. This picture describes “Interconnecting Forests, Science and People”

(翻訳：IUFRO-J 事務局 川元スミレ)

IUFRO 第 125 周年記念大会・フライブルク参加記

—幅広い森林科学への活動と貢献の場を世界レベルにも求めて—

北海道大学農学研究院 小池孝良

はじめに

IUFRO の第 125 周年記念大会がフライブルクで開催されると知って、早々と登録した。1981 年に職を得て北海道へ配属になった私は、京都大会には諸事情で参加できず、36 年ぶりで念願の世界大会であった。それも林学発祥の地であるドイツ、環境問題で注目されるに至った「黒い森」のお膝元であることから高揚感の中で参加した(写真-1)。中世のような町並みが整備された、しかし物価の高い観光都市への訪問は、予算がない中で滞在費の工面に思案した。結局、会場へ 40 分もかかる町外れのレストラン兼ホテルを見つけてきた卒業生の若者に便乗して経費節約に成功した？ これは、運営委員会の粋な計らいで、会期中、公共交通機関はネームタグを付けていると、無料！という特典のお陰である。

IUFRO-J 会長によると、祝典では記念植樹が行われたという。本稿では大会初日の挨拶から、最近、私が重点参加してきた 07「Forest and Health：森林と健全性」部会の活動を中心に報告させていただく。それは、かつて大

気汚染研究の中心であった出身研究室への回顧ではなく、持続的森林管理の基礎を担うと信じているからである。

大会の概要—特に第 7 部会「森林と健全性」に注目して

参加者約 2700 名で、学生枠参加も早々と打ち切られる賑わいであった。会場はフライブルク中央駅に隣接するコンサート会場と隣接ホテル、フライブルク大学の 2 つの建物で開催された。基調講演や本会議関連はコンサート会場の大広間で、また各種セッションは小会議室で、それ以外にも大きな講義室が提供された。1.5 時間ずつのセッションは、朝 8 時開始、終了も 20 時頃が多く、体力が必要であった。このためか、ハムやチーズたっぷりの重いパンや伝統菓子のプレッツェル、ドーナツが山のように積まれ、コーヒー、水、ジュース、各種お茶など飲み物も十分に朝食・夕食は不要の状態であった(写真-2)。

各シンポジウムは、2015～19 年の重点目標 5 課題(人々のための森林、森林と気候変化、緑豊かな未来のための森林と林産物、生物多様性・生態系サービス・侵



写真-1 IUFRO 会場の本会議場入り口

チェーンソーの技術継承の成果が一本造りのフクロウとして展示された

Photo-1 The main entrance. Welcomed by an elaborately handmade wooden owl that shows the local tradition of passing down chainsawing techniques from generation to generation.



写真-2 お茶の時間

10 時から 30 分間。日本人には十分すぎるおやつである。

Photo-2 Tea break. Enormous amounts of sweets for Japanese!

My IUFRO and the IUFRO 125th Anniversary Congress: Takayoshi KOIKE, Department of Forest Science, Hokkaido University.

The IUFRO award 2017 for achievements in air pollution and climate change impacts on forest ecosystems was awarded to Professor T. Koike for his extraordinary contribution throughout his entire career in academic science and education. See the photo presented at IUFRO Tokyo 2017 (p.11).

入種、森林・土壌そして水分関連)と5つの部会(第3部会—森林管理と森林工学、第4部会—アセスメント、モデリングと森林管理、第6部会—森林文化と林業、第7部会—森林と健全性、第9部会—森林政策)が並行で開催された。このため、重点参加した“第7部会—森林と健全性”と“森林・土壌そして水分関連”特に根圏の応答について以下に述べたい。自らは、高オゾン環境での虫害と植物起源揮発性有機ガス(BVOC)との関係と北尾光俊氏ら(森林総研)の吸収量ベースのオゾン影響と林冠の老化を代理発表した。メンバーのE. Agathokleous(学振研究員;森林総研)は、めざましい活躍であり、飛び入り(モデル・セッションでのホルメシス「毒物が毒にならない程度の濃度で刺激効果」を紹介)も含め3件を発表した。

第7部会では、今取り組んでいる森林へのオゾンの最近の影響評価法、森林の健全性と生産力への気候変動と大気汚染の影響、森林生態系に対する気候変動と大気汚染の影響と予測のための階層モデルの骨格、気候変動下での森林の健全性、窒素沈着:時空的变化と生態系への影響へ参加した。さらに、開催されたシンポジウムのタイトルを、日にちを追って以下に挙げる。マツ類漏脂胴枯病、持続的人工林における増加する虫害への応答、都市域における侵入病原菌の早期検出とモニタリング、マツ材線虫病:動態への理解と制御法の進展、産業林における病虫害の管理、侵入種の監視:調査と初期検出のための新しい方法、侵入外来種と国際交易:導入前の検出、計測、政策的緩和、森林の健全性に関する社会学・経済学的側面:将来の生物保全への貢献、樹木の健全性の科学と樹木の利用:樹木の健全性の多面的研究とバイオセキュリティの萌芽(THAPBI)、地中海性森林昆虫と病害の相互作用に及ぼす地球環境変化の影響、マツの葉枯病類とマツへの病害、森林への病虫害への扱いは適正に行われているか:歴史と現状から学ぶ、森林の健全性の及ぼす各種ストレス要因の複合影響、樹木におけるウイルス:樹木の健全性と都市空間の増進、気候変化・分断化・攪乱の時代における生態系サービスの維持と保護、であった。

さらに、根の生態系サービス(2日間連続)と都市林の役割セッションにも参加したが、内容は総説的なものと一定の成果を紹介する内容が多く、進行中の研究内容は希であった。さらに、ポスターセッションでは約400件の発表がフライブルク大学会場で開催された。

印象に残った内容を以下に示す。初日の第7部会のE. Paoletti(イタリア持続的植物保護研究所主任研究官・中国科学院生態・環境研究センター教授)は変動環境下

での森林生態系を対象にした操作実験、モニタリング、モデリングの重要性と対策への提言を主張した。さらに我々が2017年10月末に開催したActions for Sustainable Forest Ecosystems under Air Pollution and Climate Changeの紹介があった。本大会では若手に向け、Bill Manning賞も設けられた。このマニング教授(マサチューセッツ大学名誉教授)とイタリアの環境昆虫学・バチスチ教授の記念講演も圧巻であった(4日目の準本会議)。マニング教授は約30年、雑誌Environmental Pollutionを率いてこれ、私も1993年の最初の掲載以来、御指導いただいた(写真-3)。

もう1件、本会議での講義、コネチカット大学のR. チャツドン教授の講演であった。木漏れ日の光合成応答を測定できる愛用のLI-6400の基本設計をした方であった。講演の内容「復元林業:森林家、森林、景観への挑戦と機会」は、考えさせられる構成であった。まずは、発表の仕方に感銘を受けた。もっと若い時代にその技法を学ぶべきであった。もう1つは、彼女は生理生態学の重鎮のはずであったが、結局、生態系修復に転じていた。彼女は生物学者であるが、身近な大家、敬愛する先生方が、ご専門は?とうかがうと元の専門分野に関係なく「林学です」と返事が返ってくることを、彼女にも見た。この意味で森林科学(林学・林産学)は凄いな!と自らを育て下さった体系を思う。

節目としてのIUFRO

思い起こすと、研究者としての歩みは上司の御指導は申すまでもないが、1976年に山中湖畔で開催された“種



写真-3 マニング教授(右)と後継者パオレッティ博士(左)の指導を受けた学振研究員(森林総研北海道支所E. Agathokleous 博士)(中央)
マニング教授の講演会にて(第7部会01:00分科会のメンバーと)
Photo-3 Dr. E. Agathokleous, FFPRI JSPS post doctoral fellow, with his two great mentors Professor Bill Manning and Professor Elena Paoletti

子の発芽に関する IUFRO 部会”に、学生アルバイトとして採用いただいたことがきっかけであった。不心得者の私が軌道修正できたのは、当時の「林業技術」(現「森林技術」)誌の畑野健一先生の「林木の生理 12 カ月」と佐々木恵彦先生の「続・林木の生理」に触れたからであった。これらを頼りに上京し、移転途中の国立林試・筑波の人工気象実験棟を見学したときにアルバイトのお話を頂いた。この部会には山梨県林試の清藤さんはじめ国立林試や東大の先生方が多数参加された。特に議長であった浅川澄彦氏、帰国されたばかりの佐々木恵彦先生らのご発表と会の運営はすばらしく、学部生であった私は一瞬に魅了された。そして、憧れの林試(以下、森林総研)で、数年後、研究者としてのスタートを切ることができた。

その後、上司のお手伝いもかねて参加できた藤森隆郎氏が議長をされた IUFRO-Canopy process は、本部会第一回目の開催地でもあり、バイオマス変換計画の一環で、早生樹種の研究に関連して発表を行った。米国北中央林試の J.Isebrands らポプラ研究メンバーや昭和天皇の植物学の先生であったスウェーデン農科大学の Sune Linder 教授、オーストラリア CSIRO の C. Beadle ら多くの研究者とのつながりは、ほぼすべて IUFRO の部会に関連している。とりわけ共通の思い出は 30 年経っても変わらない。それは、某球団が優勝した年でもあって、記事の載った何種類もの新聞を手にした藤森議長の興奮は、その後も続くメンバーの話題にいつも上る。

また、若い方に伝えたいが、雑務にもチャンスは潜む。長期在外研究の話しが出来たきっかけも IUFRO 高山ワークショップであった。それは、現地検討会で訪ねた木曾での宿泊でのこと。和式トイレの利用の仕方を伝える役を賜った！難題であった。仕方なくイラスト入りで「お釣りに注意！」を説明したことが、後のボスの目に触れ、また、190 cm を超える長身のための布団を工夫した。それがきっかけで、「おまえのことは良く覚えている。うちで働かないか！」と人生の節目であった在外研究が実現した。その時、前回の開催地での下働き仲間との会話も役立った。そして、富士山でのミヤマハンノキ研究を紹介くださった崎尾均氏(現・新潟大)ら理学系の皆さんと知り合いになったのもこの会であった。

その後、今の職場である北大での研究のきっかけも Canopy process の面々の支援があり、大学間の協定時にもその時の人脈が大きくモノを言った。IUFRO メンバーに博士審査の副査にも就任頂くことが出来たのも IUFRO 活動の賜である、と実感している。憧れの研究

をリードされている諸先輩の活躍の姿を見せてもらい、そこへ向かって、一步でも近づきたいという思いでやって来たように思う。そして、いつの間にか、部会の主催者側になっている。その中に、私と一緒に研究を進めて下さっている中堅、若者たちがおられることは、とても有り難いことである。1976 年、目黒と筑波で声をかけて下さった林試の先輩のようにはいかないが、奇しくも河口湖畔、富士山の麓(写真-4)でも現地検討会を開催することになった第 7.01 分科会の世界大会の開催である。

フライブルク大会にも森林総研の面々が主催者側におられ、IUFRO-J の展示(写真-5)や三折りチラシ(p. 20)の配布もあった。森林総研の役割の 1 つは、やはり国際貢献であり、国際舞台をリードできる人材は、森林総研という人材バンクに溢れており、約 40 年前に目標

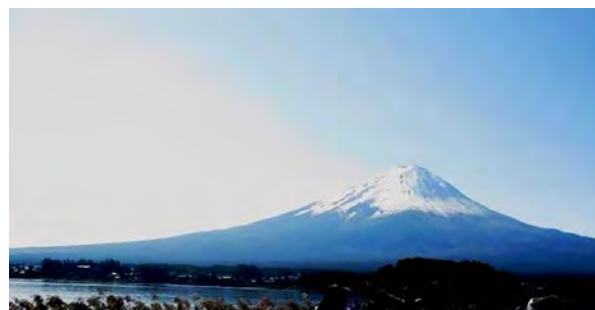


写真-4 IUFRO Tokyo 2017, 富士山エクスカージョン, 10 月 26 日, 台風明けの快晴。

IUFRO-J チラシ (p.20) に富士山油絵画像を使用。

Photo-4 Mount Fuji, October 26, 2017, viewed from Lake Kawaguchi, the morning after a Typhoon, where we enjoyed the UFR Tokyo 2017 field trip. Note that the IUFRO-J brochure for the IUFRO 125th Anniversary Congress (p. 20) takes an image of Mount Fuji, painted by Kozan Kawamoto, the father of IUFRO-J secretary.



写真-5 IUFRO-J 立て看板, 3 カ所ある中でメイン会場のコーヒーコーナーの入り口での展示。

左: Dr. E. Agathokleous, 学振研究員, 森林総研北海道支所; 右: Dr. Y. Hoshika, Institute for Sustainable Plant Protection, Italian National Research Council

Photo-5 One of the IUFRO-J roll-ups presented at the main venue of the IUFRO 125th Anniversary Congress, with Dr. E. Agathokleous and Dr. Y. Hoshika.

を見せてくださった当時に重なる。

IUFRO 125th Anniversary Congress 2017 にみた森林教育研究の展開

森林総合研究所 多摩森林科学園 井上真理子^{*1}

日本大学 生物資源科学部 杉浦克明^{*2}

緑に囲まれたフライブルクで、「森林、科学と人々をつなぐ“Interconnecting Forests, Science and People”」を大会テーマに掲げた IUFRO 大会が開かれました（写真-1, 2）。基調講演「これからの森林科学での挑戦“Challenge for future forest research”」が行われ、第3, 4, 6, 7, 9 科学部会（Division 3, 4, 6, 7, 9）に加えて設定されたトピックのひとつが“Forest for People”でした。今大会は、社会や人に関わる研究への関心の高さが特徴といえると思います。森林科学の社会科学研究は、今世紀、第22回世界大会（2005年、オーストラリア）で、それまでひとつの Division で構成されていたものが「林政、林業経済“Forest Policy and Economics”（Division 9）」と「森林・林業への社会的見地“Social Aspects of Forests and Forestry”（Division 6）」の二つに分れました。その後、研究ニーズがさらに高まっている印象です。筆者らが専門とする「森林教育“Forest Education”」に関する研究でも、9つのセッション（ポスター発表を含む）が設けられました。前回の2014年 World Congress（アメリカ）と比べて飛躍的に増加しています。また、国際比較研究（GOFE：Global Outlook on Forest Education）も行われ、

今や、森林教育は世界的な研究のトレンドといってもいい状況でした。森林教育に関する研究発表の概略をご紹介します。

IUFRO における森林教育に関する研究にはいくつかの流れがあります。まず、Division 6.09. 森林教育“Forest Education”があります。アメリカ大会まで林業教育“Forestry Education”で、1990年代からヨーロッパで盛んになった森林を学ぶ学生同士の交流や大学間の単位互換などを受けて設立しています。主な発表内容は、大学教育（Higher Forest Education, 森林管理者・研究者養成課程）に関するものです。他には、Division 9.01.03 知識の普及や交換“Extension and knowledge exchange”があります。森林所有者に対する技術や知識の普及、研修に関するものです。両者は共に、専門教育に関する内容です。日本でイメージされる子ども達や一般向けの森林や木の利用に対する普及は、まだ、IUFRO での主要な研究にはなっていません。

今大会での森林教育に関するセッションは、「森林教



写真-1 大会会場 ドイツ フライブルクの風景（中央：大聖堂、左手奥が会場）

Photo-1 The Congress venue, located on the left of cathedral.



写真-2 会場風景, Konzerthaus 会場から入口・Freiburg 駅方面の様子

Photo-2 The Konzerthaus and Freiburg Station

The IUFRO 125th Anniversary Congress 2017, Prospecting Forest Education

^{*1} Mariko INOUE: Tama Forest Science Garden, Forestry and Forest Products Research Institute. Deputy Coordinator, IUFRO Division 6.09.00-Forest Education (<https://www.iufro.org/who-is-who/officeholder/inoue/>)

^{*2} Katsuki SUGIURA: College of Bioresource Sciences, Nihon University, Divisional director of Education of the Japanese Forest Society



写真-3 IUFRO GOFE: Division6.09. と IFSA との合同プロジェクトの会合(中央がDivision 6.09 Forest Educationのコーディネーター Mika 博士)

IUFRO GOFE, Joint meeting of the Division 6.09 and IFSA organized by Dr. Mika (center).

育：相互交流の効果—イノベーションと教育課程」(発表 10 件),「森林教育」(発表 10 件),「地域連携を通じた森林教育の強化」(発表 10 件),「森林や林業についての科学的な対話の開発—森林教育のためのよりよい内容の語りやニーズへの挑戦」(発表 4 件), ポスター発表 (11 件) (合計 45 件) でした。森林教育に関する国際的な現況調査 (GOFE) の報告では, IFSA (International Forestry Students' Association) に参加しているメンバーを中心に組みまれ (写真-3), ヨーロッパ, アジア, アフリカ, 南米の状況が報告されました。残念ながら, 日本は参加できていませんが, こうした国際比較を通じて, 専門教育の質の向上が図られると思います (資料: GOFE A Pilot Study Report. 詳細は, Forest Education Database <http://www.gfis.net/gfis/education/>)。また大学教育では, 大学の教育カリキュラムの改善, 専門を活かした職業の減少の課題, 国際化に対応し国境を越えた大学間連携を図った事例の報告もありました。中でもアメリカの発表は衝撃的で, 大学の教育改革や改組 (natural resource management への統合) などで森林科学を志望する学生が減少し, 専門性の維持が切実な課題となっていました (発表者は造林の専門家)。二国間の大学協力の事例で

は, 相手国出身者を大学が雇用して学生の受け入れ対応をするなど, 大学を挙げた取り組みの様子が伺えました。その他, 一般市民などに対する取り組みの発表も見られましたが (NPO 法人森のようちえん, 森林文化の展示館の紹介, ESD: 持続可能な開発のための教育など), 多くはありません。

森林教育に関わると言うセッションに顔を出してみましたが, 参加者の顔ぶれは異なっていました。また, どちらかといえば状況報告や事例紹介的なものが多い印象を持ち, 日本の森林教育研究に先進的なものも感じました。今後, 森林教育の概念の整理や研究手法の確立が必要となると思いますが, その際, 日本での子ども達や一般向けの森林環境教育や木育と, 専門家養成のための専門教育の双方を含んだ森林教育研究が, 先導的役割を果たすかもしれません (大石・井上: 日林誌 96, 2014 年)。

日本は, 森林教育研究において世界に先駆けている可能性があります。森林教育研究を, 世界にアピールしていければと思っています。ただし, 他国の研究者も森林教育で論文を書く苦勞をしており, どの国でも “Interconnecting Forests, Science and People” の問題意識を強く持った研究者が新たな課題に挑戦し, 森林教育という新たな研究に取り組んでいることを実感しました。



Banquet table flower

「大気汚染と気候変動が森林生態系に与える影響に関する

IUFRO 国際会議 (IUFRO Tokyo 2017)」開催報告

東京農工大学 渡辺 誠

はじめに

2017年10月22日～26日に東京農工大学府中キャンパス（府中市）において「IUFRO Tokyo 2017: Actions for Sustainable Forest Ecosystems under Air Pollution and Climate Change」を開催した。これはIUFROワーキンググループ7.01.00「Impacts of Air Pollution and Climate Change on Forest Ecosystems」が隔年開催している国際会議で、今回が28回目にあたる。17カ国（含日本）から72名（海外46名、国内26名）が参加し、63件の研究発表（口頭37件、ポスター26件）が行われた。参加国は日本、カナダ、中国、クロアチア、チェコ共和国、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、韓国、リトアニア、ネパール、ノルウェー、スペイン、スウェーデン、スイス、アメリカであった（写真-1）。なお、本会議の直前（10月20日-22日）に第3回アジア大気汚染ワークショップも開催したため、同ワークショップから連続して参加する研究者も多くいた。

会議のセッションと研究発表

本国際会議は世界的に深刻化し続ける大気汚染と気候変動の森林に対する影響に関する最新の科学的知見を共有するとともに、当該分野における今後の研究課題ならびに共同研究に関する議論を行うことを目的としている。

会議を構成する6つのセッションは以下のとおりである。

1. Asian forest ecosystem under changing environment
2. Developing detection, monitoring and evaluation
3. Ecophysiological and genetic understanding of plant responses
4. Water and nutrient cycles in forest ecosystems
5. Modelling and risk assessment
6. Forest ecosystems under multiple stressors

発表の主題は東アジアにおける大気汚染（特にオゾンと窒素沈着）や気候変動（高温や乾燥など）が樹木の成長や森林の炭素吸収に与える影響などに関するものであったが、変動環境下における繁殖動態、野外における大気汚染物質の観測ならびにそれらのモデリング、さらには植食者に対する被食防衛や樹木由来の揮発性有機化合物の放出など多岐にわたる研究発表が行われた。いずれの発表に対しても多くの質問があり、活発な議論が行われた（写真-2、3）

受賞

会議のオープニングでは、これまでの優れた研究成果



写真-1 IUFRO Tokyo 2017 の参加者
Photo-1 IUFRO Tokyo 2017 Group Photo



写真-2 口頭発表の様子
Photo-2 Oral presentation, the IUFRO Tokyo 2017

Introduction of IUFRO Working Group 7.01.00 Conference “IUFRO Tokyo 2017: Actions for Sustainable Forest Ecosystems under Air Pollution and Climate Change”

WATANABE Makoto, Tokyo University of Agriculture and Technology. Deputy Coordinator 7.01.05 – Modelling and risk assessment



写真-3 ポスター発表の様子

Photo-3 Poster presentation at the IUFRO Tokyo 2017



写真-4 受賞の様子。左はワーキンググループのコーディネーターである Elena Paoletti 博士（イタリア）

Photo-4 Professor T. Koike who received "IUFRO award 2017 for achievements in air pollution and climate change impacts on forest ecosystems" from Professor Elena Paoletti, the IUFRO Division 7 Coordinator.

と数多くの若手研究者の育成が高く評価され、北海道大学の小池孝良教授が「IUFRO Award 2017 for achievements in Air Pollution and Climate Change Impacts on Forest Ecosystems」を受賞した（写真-4）。また、若手研究者を対象としたポスター賞「Bill Manning Award」は Elisa Carrari 博士（イタリア）が受賞した。

現地検討会

会議の初日にあたる10月22日の午後には明治神宮の森の見学会を開催した。当日は台風の影響であいにくの雨天であったが、都会の中にある天然林のような人工林に参加者は興味を持っていた。なお、この現地検討会はアジア大気汚染ワークショップの現地検討会も兼ねていたため、それぞれのイベントに参加した研究者同士が交流を持つことができた。



写真-5 現地検討会の様子。参加者は富士山とその周辺の森林の見学を行うとともに、富士山中腹における大気観測について説明を受けた。

Photo-5 Photos of field trip. Attendees observed Mount Fuji and forests and enjoyed listening air observation issues at the halfway point on Mount Fuji.

会議終了後は富士山とその周辺の森林の見学会を開催した。現地検討会の企画者の一人でもある富士山科学研究所の中野隆志博士による解説を聞きながら、富士山5合目ならびに中腹の森林、青木ヶ原樹海、富士山麓のアカマツ林など様々な森林を周った。富士山の5合目に行

く途中では、現地で大気観測を行っている帝京科学大学の和田龍一准教授より現地の大気に関する説明があった。青木ヶ原樹海では数百メートル程度森の中を歩いたが、イタリアの研究者が「とても豊かな森林だ」と感激していたことが印象的であった。

おわりに

本会議はワーキンググループ 7.01.00 の主要会議の一

つであり、多くの国・地域から最新の研究成果発表があった。また「共同研究に関する議論を行いたいから、どこか部屋を使わせてくれないか？」という問い合わせもあり、本研究分野の更なる発展に貢献できた有意義な学会になった。次回は 2019 年に中国南部の広西チワン族自治区で開催される予定である。最後になるが、本会議の開催にあたり IUFRO-J を始めとして、多くの関係者にお世話になった。記して感謝する次第である。

IUFRO 国際会議「Sustainable Restoration of Mediterranean Forests: Analysis and Perspective within the Context of Bio-based Economy Development under Global Changes」に参加して

筑波大学生命環境系 日本学術振興会特別研究員 (PD) 吉田美佳

はじめに

2017 年 4 月 19 日から 22 日にかけて、イタリア共和国シチリア州パレルモ市において、IUFRO 国際シンポジウム「Sustainable restoration of Mediterranean forests: Analysis and perspective within the context of bio-based economy development under global changes」が開催されました。ユフロタスクフォース「Forest Adaptation and Restoration under Global Change」, 「Climate Change and Forest Health」, ユフロリサーチグループ 1.06 「Restoration of Degraded Sites」, 3.02 「Stand Establishment and Treatment」により運営され、国際会議の主題は気候変動下におけるバイオ社会の発展と地中海気候地帯の森林保全です。アルジェリア、アメリカ合衆国、イスラエル、チリ、トルコ、モロッコなどから 120 名が参加し、日本からは筆者を含めて 2 名が参加しました。

シチリア州と会場

シチリア州の州都であるパレルモは、映画「ゴッドファーザー」などで有名です。古代にはローマとギリシャの間で交易の主要地となり、これらの古代の遺跡はシチリア州の他の市に残っています。中世にはイスラム文化も交じって、ヨーロッパの中でも国際色豊かな文化が花開きました。市内にはイスラム文化の影響がある宮

殿や教会兼モスクのような建物が多くあります (写真-1)。このような雰囲気がシチリアに住む人にとって対外的重圧感となり、土地や血縁を守るための組織が徐々にマフィアとして発展していったと言います。口頭発表初日にはシチリア市長の挨拶がありました。「自分はマフィアのような風貌だがマフィアではない。」と自己紹介され、シチリアのおいしい食べ物や観光を楽しんでほしい、また、マフィアはいないから安心してくださいとのことでした。冗談のつもりかと思いましたが、後



写真-1 パレルモ大聖堂

Photo-1 Cattedrale di Palermo stands on Corso Vittorio Emanuele street in front of the Palace where the opening ceremony was held. It has the unique history of going back and forth from church to mosque and vice versa, and the grandiosity is incomparable to other European churches.

Introduction of IUFRO Symposium “Sustainable Restoration of Mediterranean Forests: Analysis and Perspective within the Context of Bio-based Economy Development under Global Changes”. Jointly organized by IUFRO Task Forces, Research Group 1.06 -, and Research Group 3.02 YOSHIDA Mika, Postdoctoral Fellow, Japan Society for the Promotion of Science, University of Tsukuba

日、市の広報誌のようなものに、マフィア廃絶宣言とでもいうようなものが載っており、市として取り組んでいることがうかがえました。滞在中は安全快適に過ごすことができ、ピザやジェラート、マスカルポーネのお菓子などシチリア料理に舌鼓を打ちました。中でもみずみずしいトマトソースを使ったシチリアンパスタと呼ばれていた太めのパスタは印象に残っています。シチリアにはシチリア原産のネロ・ダヴォラという赤ワイン用ブドウ品種があり、外敵から守ってきた数百年に及ぶ栽培の歴史があるということでした。そのワインは濃い色味で、古きシチリアの片鱗を感じさせるような味わいでした。

会場は、初日は王宮（現議事堂）など、パレルモの名所を選んで毎日変わるという運営で、筆者の発表日はPalazzo Comitini という建物の一室で、絵画で彩られた部屋でした（写真-2）。初日のオープニングセレモニーは政府関係者しか通常は使用できない部屋で行われたそうですが、あいにく、ドイツからの乗継便が機体の不具合で遅延したために参加することができず、残念な思いをしました。

研究発表と基調講演

筆者は、櫻井倫（宮崎大学）、酒井秀夫（東京大学）と共著で、「気候変動下における林道設計と維持管理」というタイトルで発表しました。持続可能な森林経営を行うためには、その基盤となる林道の設計と維持管理が重要ですが、とくに昨今の異常気象に対しては、従来の技術に加えて新たな林道の防災対策が必要となってきます。そこで、航空レーザー計測（LiDAR）で得られたデータを用いて、林道開設前後の山地全体の表面水流の

変化を解析し、路面に生じる雨水流を事前に把握して排水施設の正確で効果的な設計が可能となることなどを発表しました。ユフロ第3部会からの出席者は多くありませんでしたが、参加者から有意義なコメントをいただきました。温暖化による森林成長に関する事例分析、苗木の成長分析、機械利用による土壌締固めなど、参考になる発表が多くありました。

基調講演では、ユフロ第3部会長でオレゴン州立大学のWoodam Chung博士が、機械利用と木質バイオマス利用の環境面から発表されました。温暖化に伴い、米国では伐採現場の標高が上がっていくので、傾斜地対応の機械化が必要になる可能性があるとのことでした。林地残材収穫による養分収奪の影響が心配ではとの質問がありましたが、オレゴンでは既に研究がなされ、全木集材をしても半分は林地に残るので、養分収奪の心配はそれほどないとの回答でした。また、環境に配慮した機械開発がどう進んでいるかとの質問があり、これまではコスト中心で考えられてきたが、技術が成熟し始めており、これからは環境に配慮した機械開発が行われていくだろうとのことでした。

国際会議の締めくくりには、地中海地方の森林は人間によって利用されてきた歴史が古く、森林資源が人々の収入源となっていることもあり、地中海森林の保全についての人々の理解を深め、政策に反映していくプロセスが大事であると結論付けられました。

要旨集と会議の様子は下記ウェブサイトからアクセスできます。

<https://palermocongress2017.com/>

コングレスツアーとエクスカーショ

インコングレスツアーでは、パレルモ大学植物園を見学しました。1780年ごろに植物学と薬学の発展のために設立され、野外植物園のほかにギムナジウム、円形アクアリウム、標本室、温室などがあり、現在は一般に開放されています（写真-3）。訪問日も観光客や遠足に訪れた小学生のグループなどがみられました。南方種が多くあるということで、アフリカ大陸やオセアニアからの植物も見ることができます。板根と気根が特徴的な*Ficus macrophylla*の大樹があり、多くの人が写真を撮っていました。

エクスカーションでは、シチリア州営林局が管理する生物多様性保全のための育種研究施設と、隣接するFicuzza森林保護区を訪れました。「イタリア時間」という言葉があるように、イタリアは時間にルーズなことで有名ですが、集合時刻を過ぎてもエクスカーショ



写真-2 発表会場

Photo-2 Presentation was held at a room in Palazzo Comitini with the prosperity of Palermo. The picture shows the lecture by Dr Woodam Chung, Coordinator of IUFRO-RG 3.



写真-3 標本室の見学

photo-3 Here we are in the botanical specimen room. Dr Giannantonio Domina gives lectures on the exhibits. They were lined up and seemed to not have enough space, curled up in newspapers.



写真-4 種の選別機

Photo-4 This is a seed sorting machine of a Swedish company, BBC. The same system was used in Serbia (reported in IUFRO-J News 115) and it seems the share of the company is pretty large!

スは来ず、結局1時間遅れて運営スタッフの自家用車に分乗して出発することになりました。シチリアはイタリア本土の人をして「シチリア時間」と言わしめるほど、輪をかけてゆっくりとした時間の中を過ごしていることをこのエクスカージョンで経験しました。道中の丘陵地にはレモン、オリーブ、オレンジ、ビワなどの果樹が植えられており、パレルモの人々の生活を支えていました。車を運転してくれていた運営員の方が、ビワ (*Eriobotrya japonica*) は日本特産でしょうと説明してくれました。日本の果物がシチリアで高く評価されていました。研究設備は2013年に本格的に始動し、種の遺伝子を研究していました(写真-4)。Ficuzza 森林保護区は多数種類のナラがあり、森林を楽しんでほしいということでかつての鉄道軌道跡を5kmほど植物観察しながらハイキングし(写真-5)、終点の町でバーベキューを

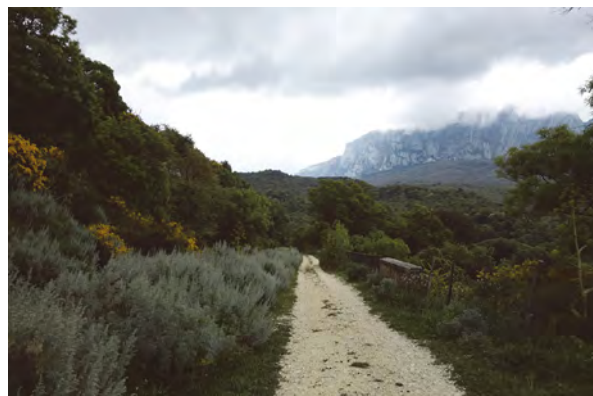


写真-5 美しい景観の鉄道軌道跡を歩く

Photo-5 Good scenery on the trail of an old train. Now the trail is renovated for cycling, and along the road, there are old train monuments... No guide in front of us, we lead the way.



写真-6 エクスカージョンでのバーベキュー

Photo-6 BBQ at the end of excursion with the members from local forest service cooking the unique food called *ciputa* (leek in Sicilian). The roasted leek is so sweet and delicious!

して終わりました。大変暑かったこともあり、バーベキューでいただいた赤ワインがとてもおいしかったです。バーベキューは地元営林署の方々が準備してくださり、イタリア語とシチリア語は違うということなども説明してくれました。ほかの参加者ともよく交流ができ、楽しい学会となりました(写真-6)。

おわりに

IUFRO 国際会議に参加し、基調講演や発表・質疑応答を通して得られる専門的知見のみでなく、インコングレスツアーやエクスカージョンで経験できる研究者同士の交流などによって得られる成果も今後の研究の継続のために重要であることを実感しています。

今回の参加は JSPS KAKENHI Grant Number JP16J00623 を用いました。また研究の一部はサントリー天然水の森東京大学秩父演習林プロジェクトによるものです。



◇ 1. IUFRO 第 125 周年記念大会

全体概要：

<http://www.iufro.org/events/anniversary-congress/>

プログラムとアブストラクト (ISBN 978-3-902762-88-7) は以下よりダウンロードしてください。

<http://iufro2017.com/downloads/>

1.1 新 IUFRO スローガン

記念大会開会式で、IUFRO の新スローガン “Interconnecting Forests, Science and People” を発表、新 IUFRO ビデオが公開され、ロゴが正式に更新されました。

<https://youtu.be/mBYEyzuJmsQ>

1.2 プログラム

科学研究プログラムは、実行委員長 Andrew Liebholt 博士（アメリカ合衆国森林局）主導により、記念大会 5 テーマに対応する基調講演をハイライトとし、口頭発表 1427、ポスター発表 452 が採択され、5 テーマ（1. 森林と人々 (Forests for people), 2. 森林と気候変動 (Forests and Climate Change), 3. 環境保全型の未来に向けた森林と林産物 (Forests and Forest-based Products for a Greener Future), 4. 生物多様性、生態系サービス、生物学的侵入 (Biodiversity, Ecosystem services and Biological invasions), 5. 森林、土壌、水の相互作用 (Forests, Soil and Water Interactions)) と第 3, 4, 6, 7, 9 科学部会全体会議とを並行して 183 セッションが開催されました。Liebholt 博士はインタビューで、参加者はどこかのセッションに属するのではなくあらゆるセッションに参加できるようにプログラムを組んだと述べています。科学研究プログラムに加えて、科学者と政策立案者・ステークホルダーとの対話、ビジネス運営と研究運営対話のための新スローガンに沿ったセッションも開催されました。さらに、サブプレナリーセッションでは、国際森林学生協会 (IFSA) 主催の「私たちの将来の森林」、国連欧州経済委員会 (UNECE)、国連食糧農業機関 (FAO)、森林通信ネットワークと IUFRO との共同主催の「アインシュタインとコミュニケーション」、IUFRO と国際農業研究協議グループ (CGIAR) 共同の森林樹木研究 (FTA) 主催の「森林樹木農業持続可能な開発のための森林樹木研究」が開催されました。基調講演等主なセッションはライブ動画で公開されています。

1.3 IUFRO 第 125 周年記念大会ビデオ、ブログ、写真

IUFRO ビデオ：<https://youtu.be/mBYEyzuJmsQ>

IUFRO と記念大会紹介ビデオ：<https://youtu.be/>



IUFRO-J 立て看板、大会会場の 3 カ所に設置
IUFRO-J roll-up published for the IUFRO 125th Anniversary Congress

xud1GJBXVNo

アインシュタインとコミュニケーション：<https://youtu.be/aDAz7okK3dA>

ライブ動画：<http://iufro2017.com/livestream/>

記念大会ビデオと写真：<http://iufro2017.com/impressions/>

インスタグラム：<https://www.instagram.com/iufro2017/>

基調講演者、科学部会コーディネーター、大会実行委

員会や参加者とのインタビューは以下にまとめて掲載されています。

<https://www.iufro.org/events/anniversary-congress/>

1.4 これまでの記念大会関係刊行物

IUFRO 125 年史, 100 年史以外にも要覧, 規約等に関する刊行図書がまとめて掲載されています。

<http://www.iufro.org/publications/general-publications/>

◇ 2. IUFRO 本部からのレター

2.1 IUFRO 賞候補者推薦募集 (締切り 2018 年 8 月 31 日)

http://www.iufro.org/download/file/26413/6138/iwc19-awards-call-for-nominations_pdf/

IUFRO 常任理事 Alexander Buck 氏 (office@iufro.org) 宛てに, IUFRO 賞委員会議長である John Innes 教授 (john.innes@ubc.ca) に CC をつけて候補者をご推薦ください。詳細: <http://www.iufro.org/discover/awards/>

2.2 グリーティングカード

IUFRO 本部より会員の皆様に届いたグリーティングカード



IUFRO: Season's Greetings 2017

◇ 3. IUFRO イベント

IUFRO 主要イベントは, 「IUFRO MEETINGS」及び IUFRO-J 英語ウェブサイトをご参照ください。

<http://www.iufro.org/discover/noticeboard/iufro-meetings/>

http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/index_Eng.html

国際森林情報サービス (GFIS) もご覧ください。

<http://www.gfis.net>

3.1 第 25 回 IUFRO 世界大会 (ブラジル連邦共和国, クリチバ)

Curitiba, Brazil; 29 September - 5 October 2019

<http://www.iufro.org/events/congresses/2019/>

3.2 IUFRO 第 2 部会全体会議

IUFRO All-DIVISION 2 “Physiology and Genetics” Conference

Prague, Czech Republic, 17-24 June, 2018

コンタクト: Yousry El-Kassaby, Division 2 Co-coordinator

Email: y.el-kassaby@ubc.ca

3.3 IUFRO 国際会議,

IUFRO NEWS Vol. 46, Vol. 46, Issue 8 ~ 11, 2017 から転載

16-19 Apr 2018

6th International Forest Engineering Conference: Quenching Our Thirst for New Knowledge

Rotorua, New Zealand

IUFRO 3.00.00

Contact: Rien Visser, rien.visser(at)canterbury.ac.nz

<http://www.foresteng.canterbury.ac.nz/FEC2018.shtml>

10-12 May 2018

Sustainable Forest Management for the Future - The Role of Managerial Economics and Accounting

Zagreb, Croatia

IUFRO Unit 4.05.00, 4.05.01, 4.05.02, 4.05.03

University of Zagreb, Faculty of Forestry

Contact: Stjepan Posavec, sposavec(at)sumfak.hr

<https://www.iufro.org/science/divisions/division-4/40000/40500/activities/>

21-25 May 2018

Ozone and Plant Ecosystems

Florence, Italy

IUFRO 7.01.00, 7.01.02, 7.01.05, 7.01.09

Contact: Elena Paoletti, elena.paoletti(at)cnr.it

<https://conference2018.wixsite.com/ozoneandplants>

11-13 Jun 2018

IUFRO 3.08.00 Small-scale Forestry Conference

Vaasa, Finland

IUFRO 3.08.00

Contact: Teppo Hujala, teppo.hujala(at)uef.fi

Heimo Karppinen, heimo.karppinen(at)helsinki.fi

<http://www.uef.fi/en/web/ssfo2018>

10-16 Jun 2018

North American Forest Soils Conference – International Symposium on Forest Soils

Quebec City, Quebec, Canada

IUFRO 8.01.03

Contact: Thomas Fox, trfox(at)vt.edu

<http://www.cef-cfr.ca/index.php?n=Colloque.NAFSC-ISFS2018>

20-22 Jun 2018

Reforestation Challenges - 4th International Conference Belgrade, Serbia

IUFRO 3.02.00

Task Force on Sustainable Planted Forests

Contact: Vladan Ivetic, vladan.ivetic(at)sfb.bg.ac.rs

<http://www.reforestationchallenges.org>

15-18 Jul 2018

**The 41st Council on Forest Engineering Annual Meeting:
Revolutionary Traditions, Innovative Industries**

Williamsburg, Virginia, United States

IUFRO 3.00.00

Contact: Chad Bolding, bolding(at)vt.edu

<http://www.regonline.com/cofe2018>

5-10 Aug 2018

**Workshop on Tree Resistance to Insects & Diseases:
Putting Promise into Practice**

Mt. Sterling, Ohio, United States

IUFRO 2.02.15, 7.03.11

Contact: Richard A. Snieszko, rsniezko(at)fs.fed.us

<https://treeresistance2018.ca.uky.edu/>

26 Aug – 1 Sep 2018

IUFRO WP 7.02.01 Root & Stem Rots Conference

Uppsala, Sweden

IUFRO 7.02.01

Contact: Rimvys Vasaitis, rimvys.vasaitis(at)slu.se

Jan Stenlid, jan.stenlid(at)slu.se

<https://www.iufro.org/science/divisions/division-7/70000/70200/70201/activities/>

9-14 Sep 2018

**The Importance of Engaging Local Communities and
Stakeholders to Increase Successful Adoption of New
Technologies**

Christchurch, New Zealand

IUFRO 9.01.03

Contact: Janean Creighton,

Janean.Creighton(at)oregonstate.edu

<http://mailchi.mp/7282aea54a70/eke-new-zealand?e=47765f11e6>

17-19 Sep 2018

Landscape Management: From Data to Decision

Prague, Czech Republic

IUFRO 4.04.00

Contact: Robert Marusak, marusak(at)fld.czu.cz

<https://www.iufro.org/science/divisions/division-4/40000/40400/activities/>

17-21 Sep 2018

Managing Eucalypt Plantations under Global Changes

Montpellier, France

IUFRO 2.08.03, 1.02.01

Contact: Jean-Paul Laclau, jean-paul.laclau(at)cirad.fr

<https://eucalyptus2018.cirad.fr/>

18-21 Sep 2018

11th International Beech Symposium

Viterbo, Italy

IUFRO 1.01.07

Contact: Alfredo Di Filippo, difilippo(at)unitus.it

<https://www.iufro.org/science/divisions/division-1/10000/10100/10107/activities/>

25-27 Sep 2018

New Frontiers in Forecasting Forests 2018

Stellenbosch, South Africa

IUFRO 4.00.00, 4.01.00, 4.03.00, 5.01.04

Contact: David Drew, drew(at)sun.ac.za

<http://conferences.sun.ac.za/ff2018/NFFF2018>

27-29 Sep 2018

**Innovations in Forest Industry and Engineering Design –
INNO 2018**

Sofia, Bulgaria

IUFRO Division 5

Contact: inno_conference(at)ltu.bg

<http://inno.ltu.bg>

27-29 Sep 2018

African Forest-related Policy and Politics

Yaoundé, Cameroon

IUFRO 9.05.00

Contact: Symphorien Ongolo,

songolo(at)uni-goettingen.de

<https://www.iufro.org/science/divisions/division-9/90000/90500/activities/>

27-29 Sep 2018

**Innovations in Forest Industry and Engineering Design –
INNO 2018**

Sofia, Bulgaria

IUFRO Division 5

Contact: inno_conference(at)ltu.bg

<http://inno.ltu.bg>

5-9 Nov 2018

**5th International Conference on Forests and Water in a
Changing Environment**

Valdivia, Chile

IUFRO 8.00.00, Task Force on Forests, Soil and Water Interactions

Contact: Adam Xiaohua Wei, adam.wei(at)ubc.ca

<http://www.iufro.org/science/divisions/division-8/80000/activities/>

12-18 Nov 2018

**Uneven-aged Silviculture: Challenges for Increasing
Adaptability**

Valdivia, Chile

IUFRO 1.05.00

Contact: Pablo Donoso, pdonoso(at)uach.cl

<http://www.iufro.org/science/divisions/division-1/10000/10500/activities/>

3.4 その他の国際会議,

IUFRO NEWS Vol. 46, Issue 8 ~ 11, 2017 から転載

29 Jan - 2 Feb 2018

**TERRAenVISION Environmental Issues Today: Scientific
Solutions for Societal Issues**

Barcelona, Spain

<https://terraenvision2018.eu/>

1-3 Feb 2018

24th Annual Conference: Attending to Socio-ecological Complexity in Tropical Forest Landscapes

New Haven, CT, USA

Yale Chapter of the International Society of Tropical Foresters (ISTF), <https://www.eventbrite.com/e/2018-istf-conference-tickets-38856056511>

20-22 Feb 2018

International Conference: Working across Sectors to Halt Deforestation and Increase Forest Area – from Aspiration to Action

FAO, Rome, Italy

International Conference organized by the Collaborative Partnership on Forests (CPF); IUFRO will be actively involved.

Participation by invitation only!

<http://www.cpfweb.org/93859/en/>

3-5 Apr 2018

World Symposium on Climate Change and Biodiversity (WSCCB-2018)

Manchester, UK Contact: Jelena Barbir, [jelena\(at\)barbir.com.es](mailto:jelena(at)barbir.com.es)

<https://www.haw-hamburg.de/en/ftz-nk/events/biodiversity.html>

6-8 Jun 2018

International Forest Business Conference 2018

Kistowo, Poland

Organizer: Forest Business Analytics (FBA)

<http://fba-events.com/>

25-27 Jun 2018

Global Bamboo and Rattan Congress 2018

Beijing, China / INBAR, SFA

Contact: Huining Pan, [hnpa\(at\)inbar.int](mailto:hnpa(at)inbar.int)

<http://www.barc2018.org/>

28 Nov – 1 Dec 2018

1st World Forum on Urban Forests

Mantova, Italy

Organized by the Food and Agriculture Organization (FAO), the City of Mantova, the Italian Society of Silviculture and Forest Ecology (SISEF) and the Politecnico di Milano. <http://www.fao.org/forestry/urbanforestry/en/>

◇ 4. IUFRO 最新ニュース

IUFRO Latest NEWS から、刊行物紹介を兼ねて一部抜粋します。

<http://www.iufro.org/nc/news/?linkpid=199>

また、IUFRO 本部の最新情報を追っていただくために、最新情報ニュースは IUFRO-J 英語ウェブサイトトップページ左上でも許可を得て IUFRO Latest News として転載しています。

- 2017-12-14

IUFRO at the Global Landscapes Forum 2017

<https://www.iufro.org/news/article/2017/12/14/iufro-at-the->

[global-landscapes-forum-2017/](#)

- 2017-12-14

Global Scientific Assessment on Interactions between Forests and Water Well Underway

<https://www.iufro.org/news/article/2017/12/14/global-scientific-assessment-on-interactions-between-forests-and-water-well-underway/>

- 2017-12-12

IUFRO News Vol. 46, Issue 12, December 2017

<https://www.iufro.org/publications/news/electronic-news/article/2017/12/12/iufro-news-vol-46-issue-12-december-2017/>

- 2017-11-27

Scientific Summary 145 in IUFRO News Vol. 46, Issue 11, November 2017

<https://www.iufro.org/publications/summaries/article/2017/11/27/scientific-summary-145-in-iufro-news-vol-46-issue-11-november-2017/>

- 2017-11-27

Scientific Summary 144 in IUFRO News Vol. 46, Issue 11, November 2017

<https://www.iufro.org/publications/summaries/article/2017/11/27/scientific-summary-144-in-iufro-news-vol-46-issue-11-november-2017/>

- 2017-10-23

IUFRO News Vol. 46, Double Issue 9/10, late October 2017

<https://www.iufro.org/publications/news/electronic-news/article/2017/10/23/iufro-news-vol-46-double-issue-910-late-october-2017/>

- 2017-10-23

The new IUFRO slogan

<https://www.iufro.org/news/article/2017/10/23/the-new-iufro-slogan/>

- 2017-09-21

New Opportunity for Early-Career Scientists

<https://www.iufro.org/news/article/2017/09/21/new-opportunity-for-early-career-scientists/>

- 2017-09-20

125 Years of IUFRO – published on the occasion of IUFRO's 125th anniversary

<https://www.iufro.org/news/article/2017/09/20/125-years-of-iufro-published-on-the-occasion-of-iufros-125th-anniversary/>

- 2017-09-20

A History of IUFRO Congresses, Forest Research and Russia's Participation

<https://www.iufro.org/news/article/2017/09/20/a-history-of-iufro-congresses-forest-research-and-russias-participation/>

(IUFRO-J 事務局 川元スミレ)

事務局からのお知らせ

1. IUFRO-J 平成 30 年度機関代表会議のご案内

第 129 回日本森林学会大会が高知大学（高知県高知市（主に高知大学朝倉キャンパス））で 3 月 26 日（月）～29 日（木）の日程で開催されます。それにあわせて標記会議を開催いたしますので、機関代表者の方のご参加をお願いいたします。

日時：2018 年 3 月 27 日（火） 12：00～13：00

場所：高知大学朝倉キャンパス共通教育棟 3 号館 331 講義室

議題：会務報告、会計決算報告、監査報告、事業計画案、予算など

代表会議で取り上げるべき議題がございましたら、事務局主事川元（iufro-j@ffpri.affrc.go.jp）宛にご連絡願います。

2. IUFRO-J ウェブサイトに関するお知らせ

会員の受賞などの情報をお伝えするためにも、IUFRO-J ウェブサイトを適宜更新しています。日本語の新着情報、英語の Latest News をご覧ください。IUFRO-J メールニュースバックナンバーにつきまして、主要なものを会員専用パスワードを設定し掲載しました。また、会員の皆様から事務局に寄せられた質問を参考に、FAQ を掲載しました。英語ウェブサイトでは、「アジア地域での国際研究集会」を追加しました。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/iufroj2017.html>

http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/index_Eng.html

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/faq.html>

3. IUFRO 第 125 周年記念大会と IUFRO-J

3.1 IUFRO 第 125 周年記念大会で立看板とチラシ配布

IUFRO 本部から森林総合研究所と IUFRO-J に対し、特別に立看板（p.15）とチラシ（p.20）配布のオファーを受け、それに応えて参りました。IUFRO 本部も、日本の研究者の国際化活動にも資する IUFRO-J の活動を極めて重要な活動としてとらえており、協調活動が期待されています。

3.2 IUFRO125 年史に IUFRO-J が紹介される

IUFRO 第 125 周年記念大会の記念刊行“125 Years of IUFRO”（p.3 参照）で IUFRO-J が紹介されました（p.95）。以下に転記いたします。

https://www.iufro.org/download/file/27515/3753/iufro2017-125-years_pdf/

IUFRO Japan News is an activity led by the Forestry and

Forest Products Research Institute (FFPRI). Located in Tsukuba, Japan, FFPRI has been cooperating with IUFRO since 1970. The cooperation with the IUFRO Secretariat finally led to the formal establishment of the IUFRO-J Committee in 1976. In order to give IUFRO-J members up-to-date information regarding international forest issues, the IUFRO-J Secretariat has published IUFRO-J NEWS three times per year since 1977. IUFRO-J NEWS usually includes issues concerning IUFRO Headquarters, announcements from IUFRO officeholders, introduction of IUFRO conferences by attendees, and the IUFRO-J annual report (which contains financial information). IUFRO-J also maintains a website that was redesigned in 2016.

4. IUFRO-J NEWS No. 121 が IUFRO NEWS に

IUFRO-J NEWS No. 121 は IUFRO NEWS Vol. 46, Issue 9/10（第 125 周年記念大会特集号）p.5 に、刊行物として紹介されています。

<https://www.iufro.org/publications/news/electronic-news/article/2017/10/23/iufro-news-vol-46-double-issue-910-late-october-2017/>

5. IUFRO 名称と目的

IUFRO（International Union of Forest Research Organization, 略してユフロ）は、森林関連の研究におけるグローバルな協力を推進すると同時に、ステークホルダーや意思決定者へ科学的知見を発信しています。IUFRO は、1892 年に設立され、オーストリア共和国のウィーンに本部を置く世界的、非営利、非政府、かつ非差別的組織です。IUFRO は、森林および林産研究や関連分野に貢献するすべての個人や組織に開かれています。会員規約及び特典については、下記をご参照ください。

www.iufro.org/membership/

6. IUFRO-J 名称と目的

IUFRO-J は国際森林研究機関連合日本委員会の略称です。IUFRO 本部の趣旨に沿って、森林・林業・林産業に関連する研究機関の相互連携を図り、IUFRO に関連する諸活動に貢献することを目的としています。本会の趣旨に賛同する機関・団体または個人は IUFRO-J の会員になることができます。

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/kaisoku.html>

About Us

The Japan Committee of International Union of Forest Research Organizations (IUFRO-J) was launched in 1970 by the Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI) to promote global and domestic partnerships in forest-related research.

The FFPRI was established in 1905 as a forest experiment center of the Forestry Service within the Ministry of Agriculture, Government of Japan. The FFPRI contributes to sustainable development through research on forest, forestry and forest products. Since 1970, the FFPRI has been cooperating with the IUFRO, in accordance with its mission of leading forest research for Japan's future. Coordination with the IUFRO Headquarters led to the formal establishment of the IUFRO-J Committee in 1976. Since then, the IUFRO-J secretariat has been located within the FFPRI.

For global contributions to the role of research in sustaining forests and people

FIND YOUR DESTINATION WITH US

Who joins IUFRO-Japan?

- Anyone who wishes to make a global contribution through IUFRO.
- Scientists and individuals who want up-to-date information on international forest issues.
- The 650 IUFRO-J members represent 36 Japanese organizations and individuals who wish to further global objectives.
- If you would like to make a global contribution to IUFRO as an IUFRO-J member, please contact the IUFRO-J secretariat.

Contact

IUFRO-J Secretariat
http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/index_Eng.html

International Partnerships Office
 Center for International Partnerships and Research on Climate Change
 Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI)
 1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687 JAPAN
iufro-j@ffpri.affrc.go.jp





FFPRI
 Forestry and Forest Products Research Institute
<https://www.ffpri.affrc.go.jp/ffpri/en/index.html>

FFPRI Mission

Through research associated with forests, forestry, and forest products industries, we will contribute to the development of a sustainable human society that utilizes the gift of resources bestowed by the rich and diverse forests in an environmentally sound way.

FFPRI Tasks

1. Contribute to the development of science and technology
2. Contribute to the realization of a safe and prosperous society
3. Contribute to the revitalization of the forestry and forest products industries
4. Contribute to the promotion of international partnerships



Living with Forests

Forest Ecosystems
People
Ecosystems

 **Forestry and Forest Products Research Institute**

What does the IUFRO-J Do?

The FFPRI "Center for International Partnerships and Research on Climate Change" promotes global and domestic partnerships in forest-related research, in cooperation with the IUFRO. The secretary of the Japan Committee for IUFRO (IUFRO-J) distributes an electronic newsletter that showcases our vision for sustaining forests and human well-being through scientific research.

In addition, the IUFRO-J secretariat has published a printed edition of the IUFRO-J NEWS three times a year since 1977. IUFRO-J NEWS addresses issues concerning IUFRO headquarters, global commitments, IUFRO conferences, IUFRO event calendars, and the IUFRO-J annual report with financial information. Back issues can be downloaded from the IUFRO-J website. We support organizing IUFRO conferences in Japan in various ways.

http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/index_Eng.htm



IUFRO-J Vision

- Advance research excellence and knowledge sharing
- Contribute to the formation of a sustainable society in environmentally sound ways.
- The IUFRO-J supports sustainable Development Goals.
- Send up-to-date information concerning the global commitment through IUFRO.



*<http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>
 For the goals to be reached, everyone needs to do their part: governments, the private sector, civil society and people like you.



Dr. Sawada, President of IUFRO-J and FFPRI: "IUFRO strengthens collaborative functions. It helps to build partnerships among Academic, industrial, and private sectors, and citizens."

Mr. Alexander Buck, Executive Director of IUFRO: "IUFRO is the only world-wide international organization devoted to forests and related sciences. It contributes to the promotion of science in the formulation of forest-related policies. IUFRO is to serve the needs of all forest researchers and decision makers."

IUFRO Bird: "I wish I could have wings to find more beauty and truth of the world."

IUFRO-J Brochure, printed in 2017 to congratulate the IUFRO 125th Anniversary Congress.
 (Mount Fuji: Oil-painting by KAWAMOTO Kozan, a collection of Saikoin, Osaka, Japan)

IUFRO-J News No. 122

平成 30 年 1 月 22 日

国際森林研究機関連合日本委員会 (IUFRO-J) 事務局
 〒 305-8687 茨城県つくば市松の里 1
 国立研究開発法人 森林研究・整備機構
 森林総合研究所内
 TEL 029-829-8327 (国際研究推進室)
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>
iufro-j@ffpri.affrc.go.jp [編集・発行]